

まちかどトピックス

7~8月



未来につながる平和への思い

8月13日~15日、レインボーホール(市民会館)で、第37回平和を考える戦争展が開催されました。

15日には平和記念講演会が催され、市内在住で「満蒙開拓青少年義勇軍」に参加した戦争経験者から、その過酷な経験や平和への思いなど貴重なお話を伺うことができました。また、市民の遺品・戦時品や原爆の資料などが展示され、訪れた多くの人たちが熱心に見ていました。



外国人市民会議が始動しました

7月18日、市役所で、第1回富田林市外国人市民会議が開催されました。

同会議では、外国人市民の皆さんの声を聞き、多文化共生のまちづくりを考えるもので、国籍やルーツ、滞在歴、年代などが違う多様な7人の委員で構成されます。

外国人市民への情報提供のあり方をテーマに、3年間かけて意見をまとめ、市長に政策提案する予定です。

聖火の種火起こしに挑戦

8月15日、喜志小学校で、東京2020パラリンピック聖火が採火されました。

参加者は、まい切り式火起こし器の説明を受けた後、種火起こしに挑戦しました。

子どもも大人も使い慣れない火起こし器に「腕が疲れる」「なかなかつかない」と言いながらも、火起こしを成功させ、奇跡の復興米のわらを使って採火しました。





夏休みの工作に^{たけあかり}竹灯

8月7日、金剛公民館で、心に灯そう・竹灯が開催されました。竹灯とは、竹に穴を開けて中に明かりを灯す照明のこと。

参加者たちは、用意された富田林産の竹を使い、動物や花火、五輪マークなど、思い思いのデザインを描き、最初は恐る恐る、次第に慣れた手つきで次々と竹に穴を開けていきました。

寺内町の新たな観光のカタチを創造

7月28日、富田林寺内町で、阪南大学の学生によるフィールドワークが実施されました。これは、寺内町の魅力を伝え未来に広げるため、保存と活用双方の観点による観光地域づくりを進める「生活空間型観光」の取り組みとして実施したもの。

学生たちは、ガイドの案内を受けながら、寺内町の建物や橋、道などの端々から歴史を見つけては、町並みを興味深く歩きました。



きらめき農業塾が開校しました

8月7日、Topic（きらめき創造館）で、富田林市きらめき農業塾の開校式が開催されました。同塾は、農業従事者の高齢化、後継者不足などの問題が深刻化し、特産の農産物の産地維持も難しくなりつつある状況の中、農家が主体となって新規就農者を育成し、本市の農業の未来を築いていこうと立ち上げたものです。これから1年間、16人の塾生が基礎課程を市内農業者より学びます。

夏空にヒマワリが満開！

7月21日、喜志西幼稚園のそばにたくさんのヒマワリが咲いていました。

太陽の光をいっぱい浴び、大人の背丈より高く成長した黄色く大きい花は、道行く人の目を引いていました。

コロナ禍で遠出が難しい状況ですが、近所にもこんなきれいな場所があるかもしれません。外出の際は、辺りを見回してみませんか。

